



国際ロータリー第2610地区

南砺ロータリークラブ

クラブ会報

なんと

NO. 2483  
(臨時増刊号)

URL <http://www.nanto-rc.jp>

E-mail [office@nanto-rc.jp](mailto:office@nanto-rc.jp)



例会日/火曜日 12:30点鐘 例会場/富山銀行福光支店4階 ◆事務局/富山県南砺市福光7336-4 ふくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

令和2年4月14日(火) ガバナーメッセージ掲載

◆ガバナーメッセージ ガバナー 松本耕作君



国際ロータリー第2610地区ロータリアンの皆様、新型コロナウイルスの蔓延で、昨日石川県・金沢市で累急事態宣言が発出されたり、富山でも院内感染が発生したりで蔓延拡大が懸念されるとともに、飲食・サービス業をはじめとして会員の基盤となる本業の事業継続が懸念される事態となっております。苦しい状況の中ですが、何とか辛抱して頑張ってお返しして下さいます。苦しい状況の中ですが、何とか辛抱して頑張ってお返しして下さいます。苦しい状況の中ですが、何とか辛抱して頑張ってお返しして下さいます。

さて、その影響はわれわれのロータリー活動にも影響を及ぼしております。感染防止の観点から例会の休会、予定していた奉仕活動の中止等々。会員同士の「つながり」を基盤にした「奉仕活動の実践」が、あたかも羽をもがれた鳥のように明るい未来に向かって飛び立つことができません。あたかも、只々暗雲の立ち込めた地表をとぼとぼと歩いているように。

しかし、こういう時だからこそ新しい発想で「一歩前進」する気構えを持つことが大切ではないでしょうか。我々の中には大地震や大規模災害に直面した経験がある方もいらっしゃると思いますが、私は絶望の中から立ち上がることができるきっかけは相互扶助、人と人との「つながり」以外ないと考えます。奇しくも今年のマローニR I 会長のテーマは「ロータリーは世界をつなぐ」です。地元の身近な「世界」の中での「つながり」を大切にしましょう。

例えば、例会の休会でなかなか会っていないメンバーに「元気ですか」と声を掛けてみましょう。フェイスブックなどでは直接会ってもいない友人の現況を画面で見て、あたかも会っていた気分になります。またZOOMなどのテレビ会議システムを利用することによって十分議論が可能になります。先日、地区青少年交換委員会と危機管理委員会で一部試行してみました。終了後、私は会議中お茶を飲んでせんべいをかじっていたことを反省しております。このように今まで当たり前であった事柄に、新しい技術を使って「行動変容」していくことが求められているようにも感じております。次年度に向けての大きな課題です。

最後にガバナーとしての組織防衛を考えたとき、PETSや地区研修協議会の中止で機会を失った八塚昌俊ガバナーエレクトと各クラブの会長エレクトが、うまくつながっていくことを祈念してガバナーとしての緊急メッセージとさせていただきます。

※新型コロナウイルスによる地区事業への影響は次のとおりです。

新型コロナウイルスによる2610地区ロータリー事業への影響

1. 例会の休会

例会の休会は各クラブの判断にまかせており、その対応はまちまち。

2. 地区事業の中止・延期

A) 3月のPETSの中止、My Rotary からビデオを見てエレクトが感想文提出することで対応。予算については資料を配布、クラブから決議信任状を提出戴き地区研修協議会が未開催の場合に備える。

B) 4月開催予定の地区研修協議会を一旦中止、プログラムを短縮(参加者:会長幹事のみ)しての実施や、テレビ会議システムの活用、或いはグループ(分区)毎に会長幹事を集めての分散開催など、ガバナーエレクトのメッセージが会員に伝わるような方策をエレクトが模索中。

C) 2月中旬以降の3分区のIMの中止。他は早期に実施済あるは未実施などコロナ以外の理由。

D) 2月中旬以降、RLI委員会、職業奉仕委員会、社会奉仕委員会などの委員会事業の中止。

E) 3月末のIAのオーストラリア研修旅行の延期。その後8月実施予定で検討するも再度中止を決定した。次年度3月台湾での実施予定をオーストラリアに変更し実施を検討中。6月予定のIA地区協議会中止、9月の年次大会は未定。

F) 6月開催予定のRAC年次大会中止。

G) スイスに向かう予定のグローバル補助金の奨学生の渡航延期、現在スウェーデンに滞在中の奨学生はそのまま滞在(ビザの再発行不能を懸念)

H) 4月の米山記念奨学生のオリエンテーションを5月に延期。4月中旬に開催可否決定するが、開催不能の場合は個別に契約書の取り交わしをすることが可能か、本部に確認中。尚対象奨学生は全員日本に滞在中。次年度は通常スケジュールから開催方法などを変更し、当初より抑制的に実施計画を策定する見込み。

I) 青少年交換留学生の国内修学旅行などの本年度事業を中止。インバウンド・アウトバウンド双方の原則帰国を指示したものの残留希望が多い。帰国ができない場合は免責誓約書の提出を求めることで対応。その後も「たびレジ」登録など帰国情報の収集に努める。

・イン 5/12人が日本に残留(帰国予定が延期、学校閉鎖の場合帰国を含む)

・アウト 4/11人が現地に残留  
検疫強化などにより、自宅に戻れない可能性もあり、ある意味で帰国のタイミングを逸したケースも見られる。

J) 次年度事業に関して(青少年交換)

ベルギーの短期交換プログラム(派遣)の中止決定  
青少年交換については、相手地区から期間短縮しての実施が可能かなどの問い合わせもあり、次年度派遣予定者への対応、次々年度の募集などのスケジュールも考え、引き続き情報収集をおこない、期限となる5月末までには方針を決定する。

3. 本日試行したZOOMによるテレビ会議は、まだまだ未完成であるが一堂に会することなく意見交換、意思決定ができる点を実感したので、エレクトを中心に早急に体制を整える。

◆幹事報告 山田 孝幹事

①G事務所より、「RI日本事務局在宅勤務」の案内。4/1~

②G事務所より、インターアクト海外研修再中止のご案内。

③G事務所は、ゴールデンウィークの休業期間:2020/4/29(水)~5/6(木)。

④米山記念奨学会より、事務局テレワーク(在宅勤務)を実施案内。

⑤各クラブより例会変更案内

高岡、砺波、東となみ、小矢部中、高岡万葉、高岡北、射水、氷見、氷見中央の各クラブより4~5月の例会取消案内受領。

◆委員会及び会員関連事項報告

★次期委員長会議は中止にします。

森 雄 一次期幹事

★社会奉仕

中田修委員長

4/237の財団補助金事業のあゆみの放流を、現在の情勢では新型コロナウイルス感染拡大防止につとめるため、保育園児や関係団体および当クラブも活動自粛の折、行事を中止とします。



「COVID-19」新型コロナウイルスの世界的な感染猛威は誰が想像できたでしょうか。中国武漢で発生し、瞬く間に全世界を恐怖に落とし入れた大惨事は、病気に止まらず世界的大不況をも招いている今日です。

この未曾有の大事件は、オリンピック・パラリンピックの歴史上初めての延期に繋がり、ロータリー活動においては丁度、次年度活動計画の最終段階に入っている最中、PETS、地区協議会など最も重要な会議まで中止せざるを得ない状況になってしまいました。

D2610地区八塚ガバナーエレクトにおいても、かつてない経験の事態に直面し、大きな決断を余儀なくされ、ご苦労されていることに心から同情を禁じ得ません。

この様な時こそ、ことの真価が問われるものです。私はRIJYEM(一般社団法人国際青少年交換多地区合同機構)の理事を拝命している中で得ている素晴らしい活動の一端を少しご紹介させていただきます。

### ・RIJYEMの事業

RIJYEMの事業をそのまま受け継いだ形となり、大きく6つの事業部門があります。

RIJYEM社員の選定、ロータリー交換学生身元引受書の署名、危機管理事案が発生した場合、危機管理支援委員会に連絡することなど、地区ガバナーと共働で推し進めることとなっています。

この度の「COVID・19」新型コロナウイルスの大感染は当初ここまでの拡大は誰もが予想していなかったと思います。また、ロータリアンとしてどれほどの人達が交換留学生と結びつけて考えられていたでしょうか。

RIJYEMには東京都港区に事務局が設置されており、理事長鈴木孝雄氏、アドバイザー近藤眞道氏、事務統括都留統括事務局長氏が着任されています。その都留統括事務局を中心とした活動が実に素晴らしいのです。当2610地区では北川雅一郎氏がRIJYEMの全国委員として素晴らしい活躍をされており、全国の委員会の皆様からの信望も厚く大変頼もしく映っています。

世界から若い交換留学生を引受け、日常活動の中で起こりうる危機管理について今日までに詳しく丁寧に啓蒙活動がなされていますが、今回の新型コロナウイルス対策については、早期に「来日学生全員を母国に帰国させる」ことを基本方針として位置づけ活動されてきました。来日学生には夫々母国が違うことから状況が異なることもあり、早急帰国には、各地区は夫々派遣国のスポンサー地区、スポンサークラブ、ご両親等の親権者と早急に連絡を取り、日本の基本方針を伝え、スポンサー側の意向を最大限に取り入れ、派遣国と日本の合意を早急に行うこと。また、帰国に際しては母国到着時の検疫処理の対応をとることなど、国々によって対応の違いを迅速に的確に情報を掴み、それをどう行動に結び付けるかなど大きな課題となりました。

具体的には、帰国の手続き、保険の手続き、帰国後の学校の編入問題など、派遣国の事情は微妙に違っているが、



世界から引受けている若い交換留学生  
(写真はイメージで数年前の交換学生)

多岐にわたる問題を各地区委員がネットで情報交換し、課題の共有化がなされ、しかも判断が急を要するなど、都留統括事務局長が実に的確に迅速に裁いておられる様子を唯々感心して見守っていました。

私たちが日常取り組んでいる様々な奉仕活動がありますが、人の生活に直接かかわる問題、特に青少年を対象とした奉仕活動には大きな意義はありますが、ご苦労もひとしおであるとしみじみ感じています。

